

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院血液内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この研究では、亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として、研究対象として扱わせていただきます。この案内をお読みになり、ご自身やご家族などがこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族などの診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2010年4月1日 ～ 2023年3月31日の間に、虎の門病院血液内科に入院・通院し、進行性多巣性白質脳症に対して治療を行った方

【研究課題名】

造血器悪性腫瘍を背景とした進行性多巣性白質脳症の特徴

【研究の目的・背景】

《目的》

当院において進行性多巣性白質脳症に対して治療を行った症例を集約し、臨床症状、経過、治療とその効果について解析いたします。

《研究に至る背景》

進行性多巣性白質脳症は、主に細胞性免疫の低下や病態修飾療法を背景に発症する、JCウイルスによる中枢神経感染症です。亜急性に様々な神経症候を呈し、多くが致死的な経過をたどり、長期生存例においても重度の機能障害を残します。

JCウイルスに対する治療薬は確立されておらず、免疫機能の再構築・正常化を図ることが効果的とされておりますが、一般的に予後は不良であり、後天性ヒト免疫不全ウイルス非関連の進行性多巣性白質脳症の中央生存期間はわずか3ヶ月に留まります。本研究の結果から、進行性多巣性白質脳症の神経予後・生命予後を改善する情報が得られると考えております。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2023年4月25日 ～ 2027年3月31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別するこ

とができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は虎の門病院血液内科 内田直之のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

患者基本情報（年齢、性別、身長、体重、背景疾患とそれに対する治療、併存疾患）
進行性多巣性白質脳症に関連する情報（背景疾患に対する治療から進行性多巣性白質脳症の診断までの期間、発症からの臨床経過、進行性多巣性白質脳症に対する治療とその効果、発症から死亡までの期間、死亡理由）

【虎の門病院における研究責任者】

血液内科 内田 直之

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族などの診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。
また、ご自身やご家族などの診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2023年9月30日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 血液内科 渡部音哉

電話 03-3588-1111(代表)